

## 「愛情、自信、そして学び続ける力を すべての生徒へ」

### 【スクール・ビジョン（目指す学校像）】

「関わる人たちを幸せ（ウェル・ビーイング）にする道具となる」

- 教員・生徒・地域の人を作る学校
- 生徒・教員・地域の人が使うことで、みんなが幸せになる学校

### 【スクール・ミッション（果たすべき役割）】

「生徒が見たい景色を見せる学校となる」（定時制普通科）

- 多様な生徒に対し、夢の実現、自分の在り方・生き方の追求を応援する学校

「風の人と土の人が手を携え、

新しい『学び』をデザインし続ける学校となる」（町立）

- 学び合いを大切に、新しいことに前向きに挑戦しつづける学校
- 全てにわたる「選択と集中」、前例のないところから組み立て、進化し続ける学校

### 【スクール・ポリシー（経営に関する考え方）】

グラデュエーション・ポリシー（卒業までに身につけさせる資質・能力に関する方針）

「自己理解力・発信力・課題発見力・自己教育力・協働力を育む学校となる」

- 夢や己を語る人を育む学校
- 「助けて」「教えて」と言える人を育む学校
- 他者に関心を持ち、他者の困り事や悩み事に寄り添う人を育む学校
- 学び方を身につけ、自分をアップデートし続ける人を育む学校
- 他者の個性を尊重し、多様性を許容し、共に輝こうとする人を育む学校

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成及び実施に関する方針）

「自然とつなげ・自分とつなげ・人とつなげる学校となる」

- 大自然や地域の人々とのふれあいの中で五感を養う体験活動を重視する学校
- 五感を土台に論理的に考え、ICT を効果的に活用して対話する活動を行う学校

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

「自分を変えたい生徒を応援する学校となる」

- 「なりたい」「やりたい」を応援する学校
- 「自信をもちたい」を応援する学校
- 「誰かと一緒に何かやりたい」を応援する学校

### 【スクール・バリュー（生徒・保護者及び関係する方々との約束）】

「公教育をとおして、信頼され、信用される学校となる」

- 遵法意識と経費軽減（負担軽減）の意識を持ち、質の高い教育を持続的に行う学校

### 【スクール・クレド（教職員が持つ判断及び行動指針）】

「鵜飼いはおらず、よき羊飼いがいる学校となる」

- 指示・命令、管理ではなく、気づきを与え、見守り、丁寧な支援を土台とする学校

「空振り三振しても、見逃し三振するバッターがいない学校となる」

- 健康、安全、安心に関してはすぐに動く学校

「令和6年度 北海道日高高等学校 学校経営方針」について

1 【スクール・ビジョン（目指す学校像）】

- “ウェル・ビーイング” 内容 持続的幸せ。一時的幸福感（ハピネス）と異なる。  
評価 ①やってみよう（自己実現と成長）  
②ありがとう（つながりと感謝）  
③なんとかなる（前向きと楽観）  
④わたしらしく、あなたらしく（独立とマイペース）

2 【スクール・ミッション（果たすべき役割）】

①定時制普通科

- “多様な生徒” 産業学習生のみならず、就労生、社会人をも、入学者に想定する。  
「困難の多様性」 本人の努力だけで乗り越えることが容易でない困難

②町立

- “風の人と土の人が手を携え” 学校教育と社会教育（スポーツ・文化活動体験、地域づくり）の連携  
“新しい『学び』” ICT 機器の日常的活用  
総合的な探究の時間における地域づくり・地域課題解決の取組  
※ひだからタイム

3 【スクール・ポリシー（経営に関する考え方）】

①グラデュエーション・ポリシー

- 規準 C 言動がみられない。（「しない」だけでなく、「できない」ことも含む）  
B 会話レベルの言動がみられる。（親しい間柄、情動的、前向きな姿勢が未発現）  
A 対話レベルの言動がみられる。（誰に対しても、情動的＞理知的、前向きな姿勢の発現）  
S 対話レベルの言動になっている。（誰に対しても、情動的＜理知的、前向きな姿勢）

②カリキュラム・ポリシー

- 産業学習（社会教育）と日高高校（学校教育）との分担と連携  
役割分担 ア 対象者 産学 産学生 / 高校 産学生＋就労生＋社会人他  
イ 学びのねらい 産学 感性の醸成 / 高校 資質・能力の育成  
ウ 学びの方法 産学 自然体験活動 / 高校 ICT 機器等の活用、地域づくり  
連 携 三修制選択生徒に関わる生徒理解と支援（指導）

③アドミッション・ポリシー

- 困難に向き合う生徒を支えるセーフティネットの役割を果たす。

4 【スクール・バリュー（校外的な対応）】

- ① “遵法意識（リーガルマインド）” 法的枠組み、計画時間・予算の範囲内で取組。  
② “信頼” 情報提供と理解の上に成り立つ。（成立は一時的）  
“信用” 信頼が積み重なった納得の上に成り立つ。（成立は持続的）

5 【スクール・クレド（教員の判断及び行動指針）】

- ① “鶏飼い” 「生徒のために」との言動の下に、教員の価値観や見通しを押しつけていないかどうか。  
② “羊飼い” 「生徒の視点に立った」言動を心がける。  
ア 教員の価値観や見通しについて、生徒・保護者に丁寧な情報提供と理解促進  
イ 判断は、生徒・保護者の自由意思に委ねる。教員は結果に応じて柔軟に対応する。  
③ “空振り三振” 違和感に対して“記憶”でなく、事実にもとづく“記録”を。